

学校教育目標	「輝くひとみ 仲間とのびる 下野庭の子」 ～課題をつかみ 自分なりに創造(つくる・あらわす)することができる子 自分の気づきや考えたことから生まれた思いや願いを 相手を意識して伝えることができる子の育成～ ○めあてをもって、ねばり強く取り組んでいこうとする子を育てます【知】 ○生命を大切に、自分のよいところを知り、伸ばそうとする子を育てます【徳】 ○自らの生活を見つめ、健康な心と体をつくろうとする子を育てます【体】 ○できることをすすんでやり、みんなの役に立とうとする子を育てます【公】 ○互いを認め合い、人や地域とよりよいかかわろうとする子を育てます【開】			
	創立 44 周年 児童生徒数: 576 人	学校長 加藤雅司 主な関係校: 丸山台中学校(野庭中学校) 丸山台小学校 野庭すずかけ小学校	副校長 中林 あや	学期制 一般学級: 18 個別支援学級: 4

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	丸山台中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自分づくりに関する力」 自己実現を図る力 共感・協働的な人との関わりをつくる力 言語活動の充実	野庭中学校 丸山台小学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校	○いつでも元気よくあいさつできる子ども ○自分も仲間も大切にできる子ども ○すすんで学習しようとする子ども 小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観および、研究協議の機会を年4回設定。 ・担当者会議を年5回設定。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定。

中期取組目標 ○学校教育目標の実現に向けて、全職員が学校経営に積極的に参加し、活気にあふれた学校づくりを推進します。 ・子どもたちが学習の楽しさを実感できる授業づくりを進め、学力向上を図ります。 ・一人ひとりの子どもが自分のよさに気づき、安心して過ごせる居場所づくりに努めるとともにチームとして子どもたちを育てます。 ・自分の体力に目を向け、改善していく大切さに気づき、より力を高めていこうとする子を育てます。 ・学校・保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりを進めます。

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 担当 教務部	①ねらいを明確にした授業づくりに努め、対話的な学びを効果的に取り入れたり、ワークシートの開発・板書や教具活用の工夫等を行ったりし、わかる授業を実践していく。②少人数指導や教科担任制を効果的に生かし、一人ひとりに寄り添った支援をする。
豊かな心 担当 領域部会	①自他のよさに気づき、認め合う心を育てるために、道徳等の授業や教育活動を通して、広い視野から物事を見たり考えたりする場の工夫をする。②読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書、総合的な学習を通して、豊かな心を育てる。
豊かな心 担当 領域部会	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、実践していく。
健やかな体 担当 体力向上委員会	①体育科カリキュラムの系統性を見直し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。②全校ジャンピング(1分間前跳び+リズム縄跳び)や中休みの体育用具の貸出など様々な活動を通して、自分に合った運動の楽しさを感じながら運動に取り組もうとする子を育てる。
特別支援教育 担当 特別支援部	①個別学級担任、交流級担任が丁寧に情報を共有し、どの子どもも安心して学習できるように環境を整え、個に応じた学び方や支援の方法について学び合う機会を作る。③発達障害の特性等についての理解を深め、指導に生かす。
児童指導 担当 児童指導部	①学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場で、「下野庭スタンダード」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。②あいさつの大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。
地域連携 担当 学校地域コーディネーター	①コーディネーターを中心に構築してきた支援組織の機能を生かし、学習支援ボランティアや保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動を発信し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して情報を共有し、学習や児童指導に生かす。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①学校いじめ防止基本方針に基づく年間計画の作成・実行・検証・修正を行い、学校いじめ防止対策委員会の存在および活動を児童及び保護者に周知する。②「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を定期的に活用し、授業においても活用できるよう情報交換を密にする。
人材育成・組織運営(働き方改革) 担当 教務部	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。②児童理解や人権等の研修を行うことで教師力を高め、チーム意識をもって諸問題に対応していく。③校務分掌の統合、フレックスによる就業への柔軟な対応、チーム学年事業を通して、効率よく、効果的な教育活動を推進できる組織運営